

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	難民受け入れ地域の人とモノのモビリティに関する人類学的研究：ウガンダの事例から				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	村橋 勲
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	村橋 勲

<b>講演題目</b>
アフリカの難民と持続可能な開発目標（SDGs）—— ウガンダの事例からみる現状と課題
<b>研究の目的、成果及び今後の展望</b>
<p><b>1. 目的</b> 本研究の目的は、アフリカ最大の難民受け入れ国であるウガンダを事例に、SDGs 実現に向けた活動と現状を分析し、支援における課題を考察することである。</p> <p><b>2. 背景</b> 世界の難民数が1億人を超える現在、UNHCR は持続可能な開発目標（SDGs）を掲げ、難民や国内避難民を含め、誰一人取り残さない世界の実現に向けて支援を続けている。しかし、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大やロシア-ウクライナ戦争の影響により、発展途上国における難民支援は削減傾向にある。そのような状況で、難民受け入れに寛容と言われるウガンダの難民居住地における支援にどのような影響が出ているかを明らかにする。</p> <p><b>3. 成果</b> 【研究・教育活動】 新型コロナウイルス感染症拡大により、ウガンダで計画していたフィールドワークは実施できなかったが、Zoom を使ってオンラインでインタビューを行い、難民支援の現状について聞き取り調査を行った。また、ムバララ科学技術大学（ウガンダ）のフランク・アヒムビジーブウェ上級講師を本学に招聘し、フィールドスタディの授業で学部生に講義した。この授業で、授業のコーディネーター兼通訳として講義に参加した。 【論文等出版物】 村橋勲(2022)「キリヤンドンゴ難民居住地における難民の暮らし」、花谷厚、『人道と開発をつなぐ——アフリカにおける新しい難民支援のかたち』、佐伯コミュニケーションズ、pp. 71-76. 村橋勲(2023)「アフリカにおける食料問題とそのゆくえ」『Vesta』129:18-23、特集『来るべき未来の食』の特集アドバイザー。 村橋勲(2023)「紛争による人の移動が作り出した地域社会におけるつながりと差異——ウガンダの難民居住地における難民と移民のミクロヒストリー」、王柳蘭・山田孝子（編著）『ミクロヒストリーから読む越境の動態』、国際書院、pp. 129-160.</p>